



「ここに来ると、私たちの方が元気をいただいて帰るんですよ」と美郷会の皆さん。結成は平成6年。本郷で活動を始めたことにちなんで名付けられました。

子どもからお年寄りまで、生涯のライフステージそれぞれに、いきいきと輝く笑顔があります。お互いに助け合って、ふれあって、いっしょに奏でる暮らしの讃歌。今日も、街は元気です。

山武 讃々

さんさんさんむ



美郷会 B型リハビリ・ボランティアグループ

明るく元気な笑顔が何よりいちばん。“寄り合い”のような手作りの時間です。



B型リハビリとは、介護状態にならない状態を維持するために、指の体操や肩たたき運動のほか、しりとりなどの頭の体操も取り入れています。

仲間づくりの機会として、気軽に参加してみませんか。

毎月3回、山武地区の3か所の会場を順に巡りB型リハビリのお手伝いを行っている美郷会。地域の高齢者の方たちといっしょに、23人の明るいお母さんたちが楽しいひとときを過ごしています。「リハビリといっても、集まっておしゃべりして、楽しんでが目的ですよ」と会長の猪野八千代さん。その言葉のとおり、体操やゲームの間じゅう笑顔と笑い声が絶えません。

てことばの会 手話サークル

一人でも多くの人に、少しずつでも安心して暮らせる世界が広がりますように。



「最近、中学校や高校からも声をかけていただくことも多く、うれしいことです」と、聴覚障がいのある鈴木順子さんから、手話によるメッセージをいただきました。

手話で自己紹介ができるように名前を表し方を練習中。



「誰でも覚えやすいように工夫されているんですよ。いっしょに学びませんか」と、手話サークルでことばの会の小安吉枝さん。「聴覚障がい者とのコミュニケーションの方法は手話の他に要約筆記などもあります。また「障がいのある人が安心してどこでも行ける時代になるように」と、手話&手話ひまわりの中村朝子さん。ともに手話を学びながら、障がいのある人との交流を深め、誰もが暮らしやすい街にと願う皆さんです。

平成8年から続く小学校での勉強会も、少しでも多くの人に手話に親んでもらうための活動の一環です。特別なことではなく、手話は誰にでも開かれたコミュニケーションのひとつ。まずは、自己紹介から覚えてみませんか。